



2025年2月期 第1四半期決算

イオン株式会社

2024年7月12日

- 営業収益は前年から増収で過去最高を更新
- 営業収益・親会社株主に帰属する四半期純利益は概ね想定通りの水準

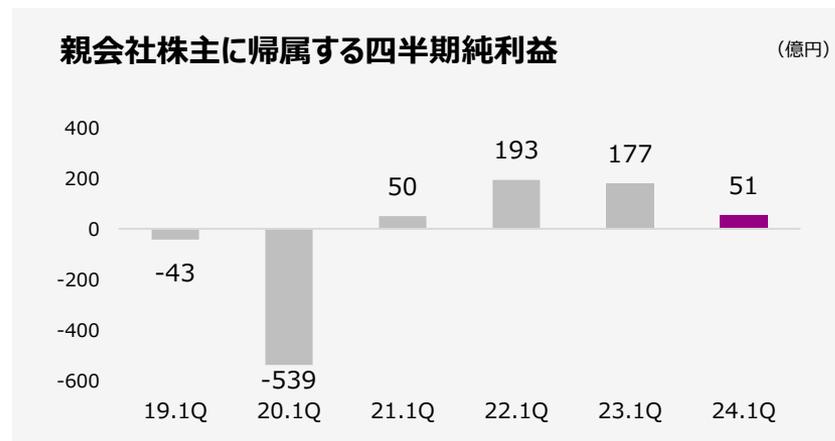
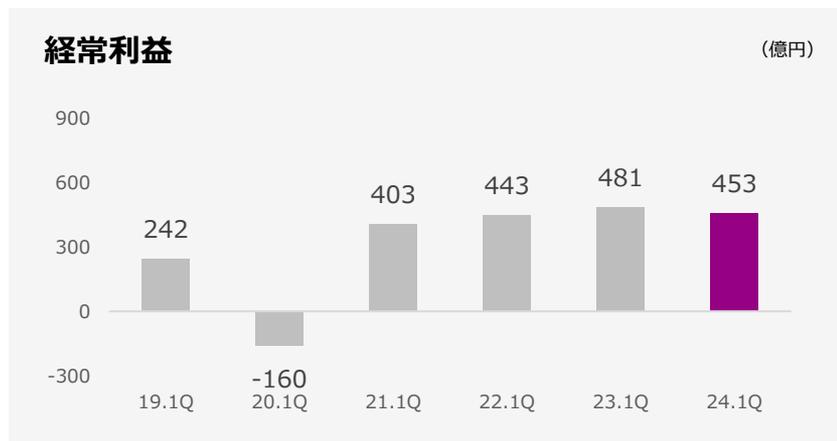
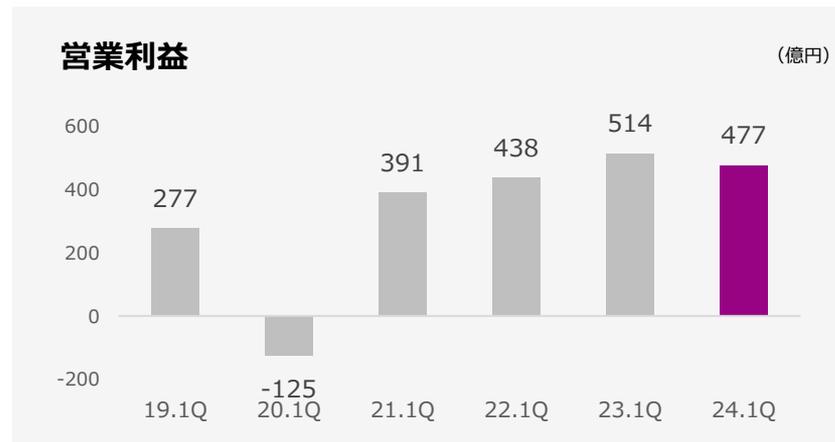
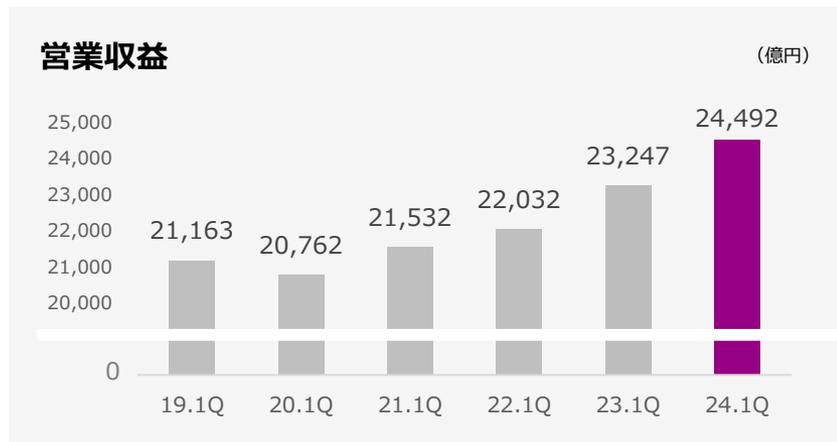
連結業績

(億円)

1Q実績

	当期実績	前年実績	対前年増減率	対前年増減差
営業収益	24,492	23,247	+5.4%	+1,244
営業利益	477	514	-7.1%	▲36
経常利益	453	481	-5.7%	▲27
親会社株主に帰属する 四半期純利益	51	177	-71.1%	▲126

- 営業収益は4期連続で過去最高を更新し増収
- 営業利益・経常利益は過去最高の前年に次ぐ水準



- 営業収益：サービス・専門店事業を除く全事業が増収
- 営業利益：総合金融、ディベロッパー、国際、サービス・専門店、DS事業が増益

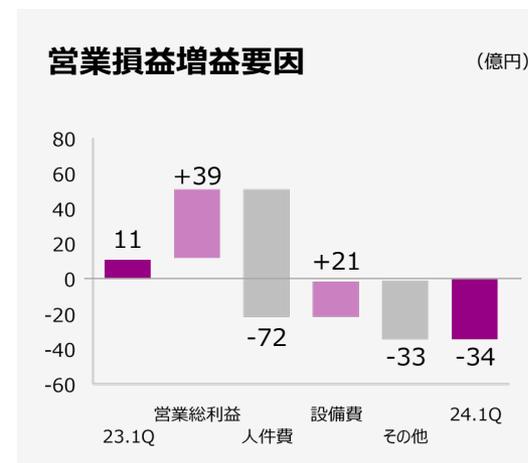
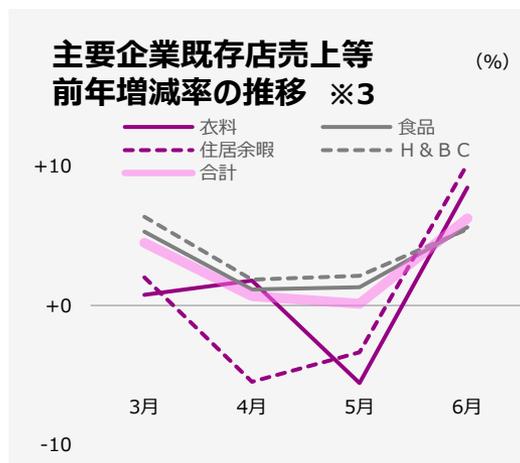
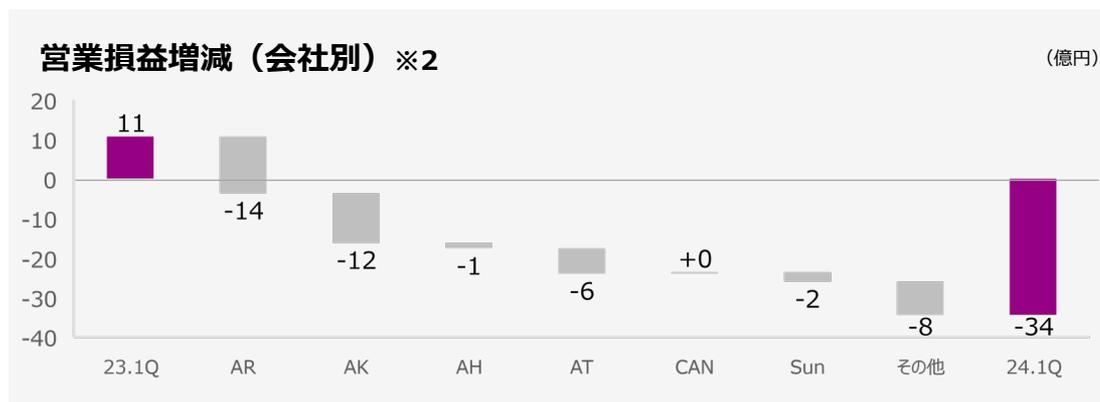
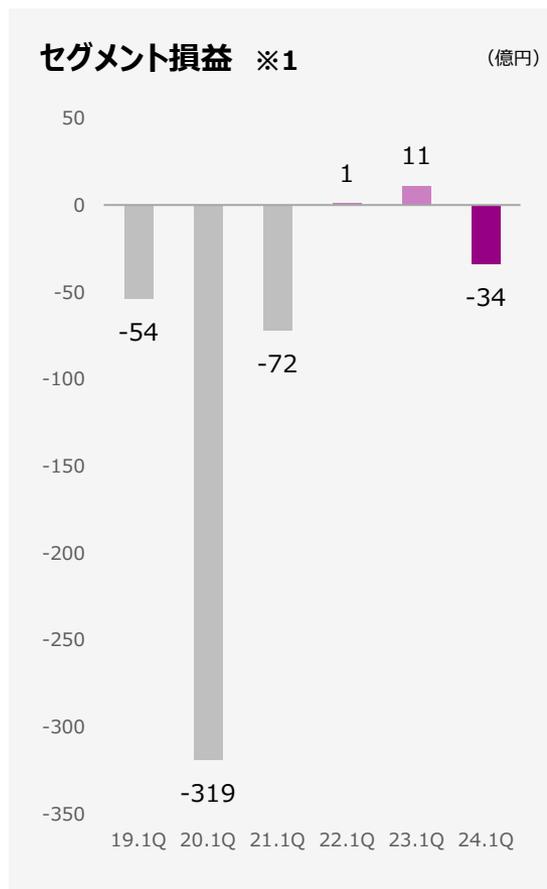
セグメント別業績

(億円, %)

		営業収益		営業利益	
		実績	対前年四半期 増減率	実績	対前年四半期 増減差
報告 セグ メン ト	GMS事業	8,539	+1.5%	-34	-46
	SM事業	7,317	+10.1%	36	-26
	DS事業	1,004	+0.9%	19	+2
	ヘルス&ウェルネス事業	3,179	+6.1%	53	-18
	総合金融事業	1,271	+9.8%	149	+54
	ディベロッパー事業	1,218	+4.3%	157	+17
	サービス・専門店事業	1,799	-0.3%	59	+4
	国際事業	1,422	+7.6%	39	+7
	その他	152	+16.6%	-24	-4
	調整額	-1,415	-	21	-28
	連結合計	24,492	+5.4%	477	-36

セグメント別実績の概況(第1四半期)

- インフレ継続や実質賃金のマイナスで消費低迷と節約志向が高まる中、販促強化で既存店実績クリア
- 昨年のリベンジ消費やマイナポイントの反動が大きく減益、第2四半期は商品・価格戦略強化で反転攻勢へ

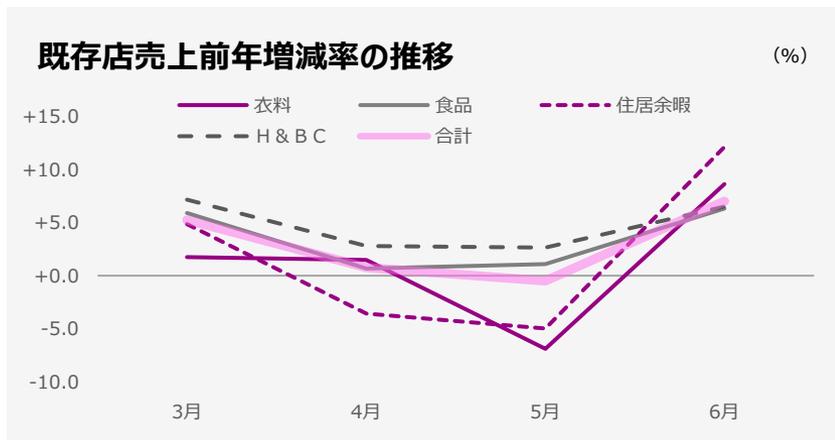
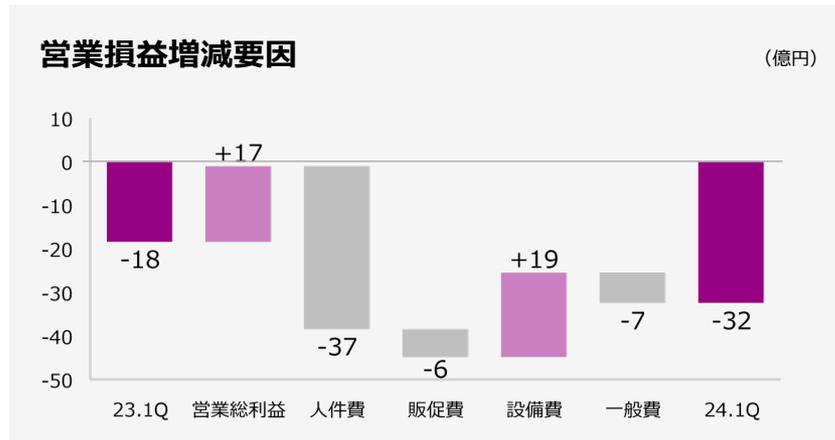
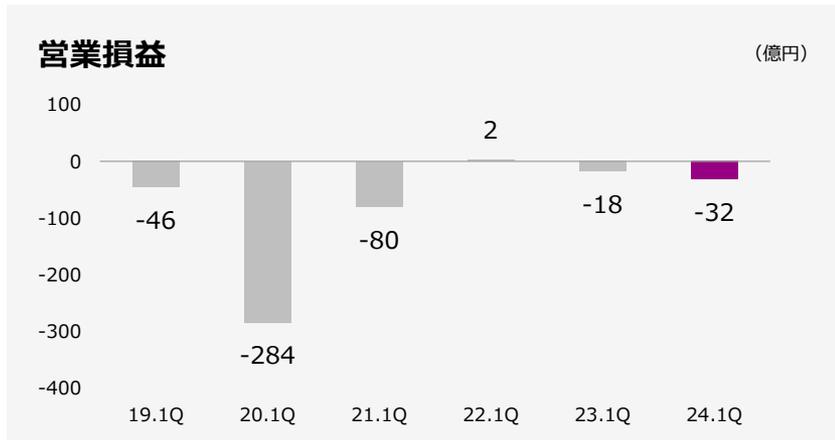


※1 過年度実績はセグメント変更会社を調整

※2 AR:イオンリアル単体、AK:イオン九州連結、AH:イオン北海道単体、AT:イオン東北単体、CAN:キャンドウ連結 (セグメント変更)、Sun:サンデー連結

※3 GMS事業主要14社

- 価格戦略重視で、シェア確保に重点
- 販促強化も、ペントアップ需要の反動で荒利ミックスに改善の余地
- AIツール導入拡大で人時生産性の改善と収益構造改革の継続



中計・構造改革の進捗、コスト上昇影響

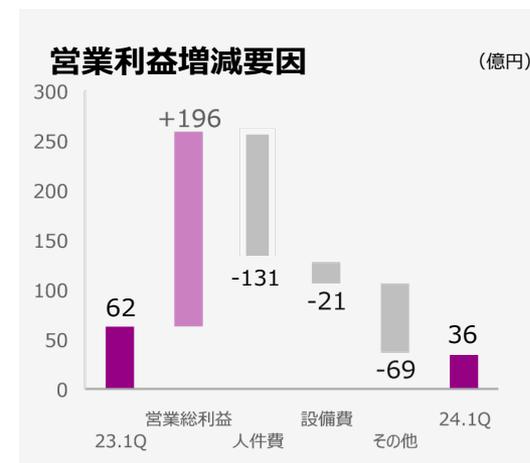
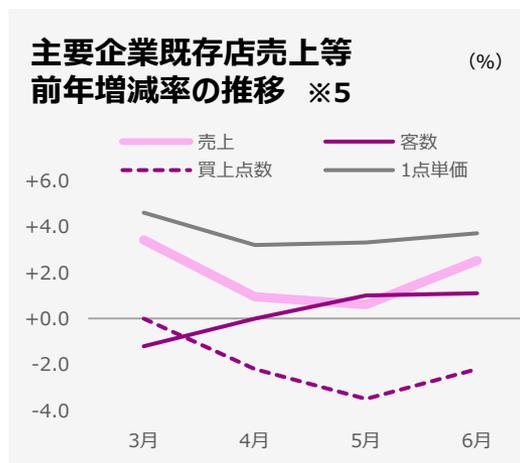
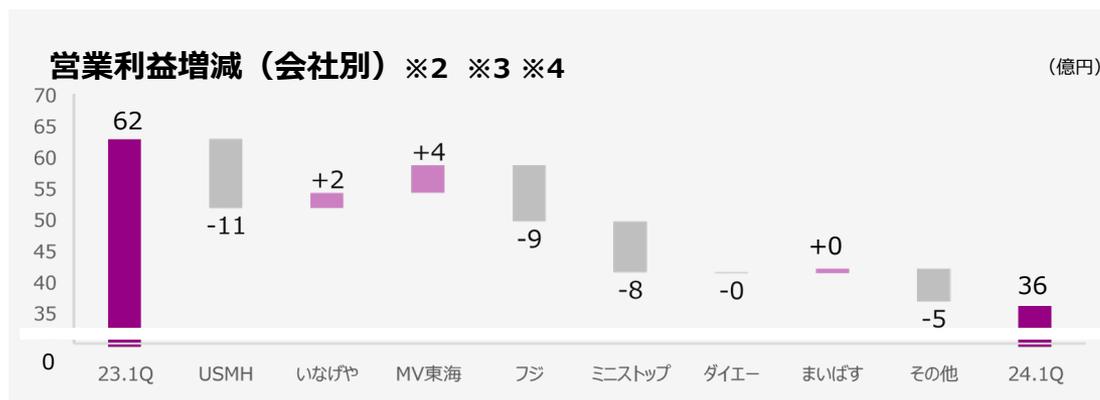
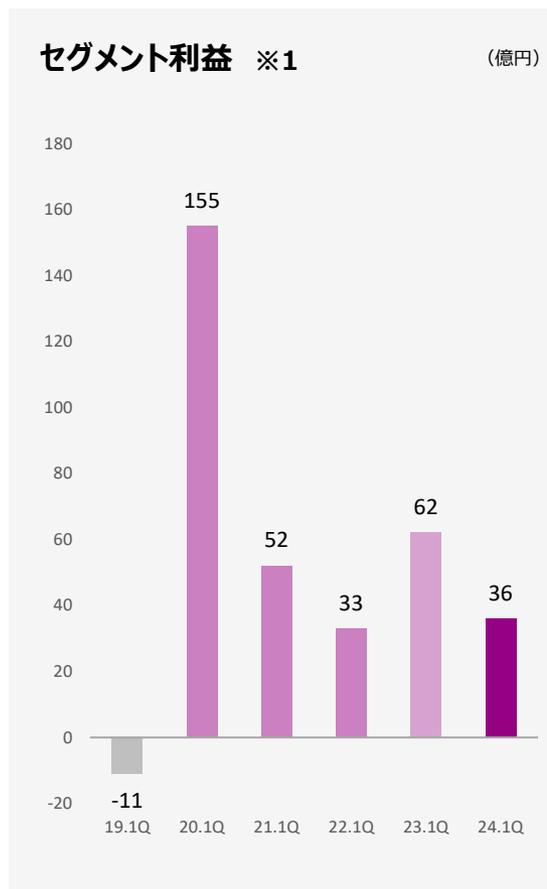
トップバリュ売上 前年同期比	103.4%	人時生産性 前年同期比	102.2%
在庫 ※1 前期末増減	1,244億円 +15億円	賃上げ影響 前年同期差	+22億円 ※3
テナント収入 前年同期差	+1億円	水光熱費 前年同期差	▲25億円
EC事業売上 前年同期比	107.6%	ネットスーパー デジタルピッキング	100店舗
レジゴー	218店舗	AIワーク MaIボード ※4	326店舗
AIオーダー ※2	337店舗	AIカカク	デリカ 347店舗 デイリー 323店舗

イオンリテール 369店舗 2024年5月末時点

※1 トップバリュコレクションへの移管影響あり

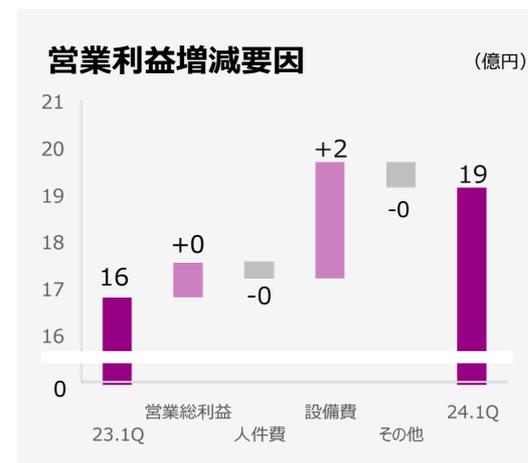
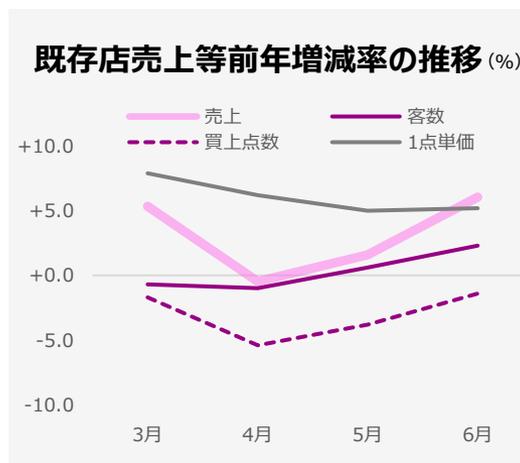
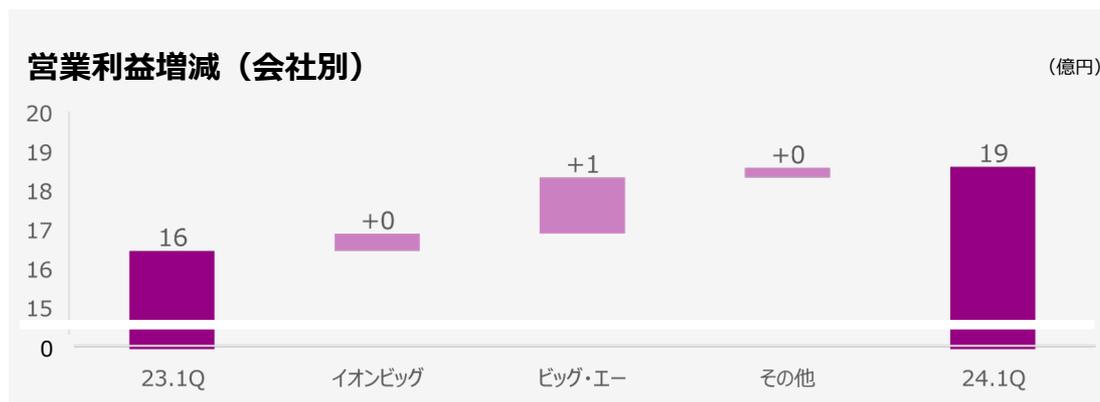
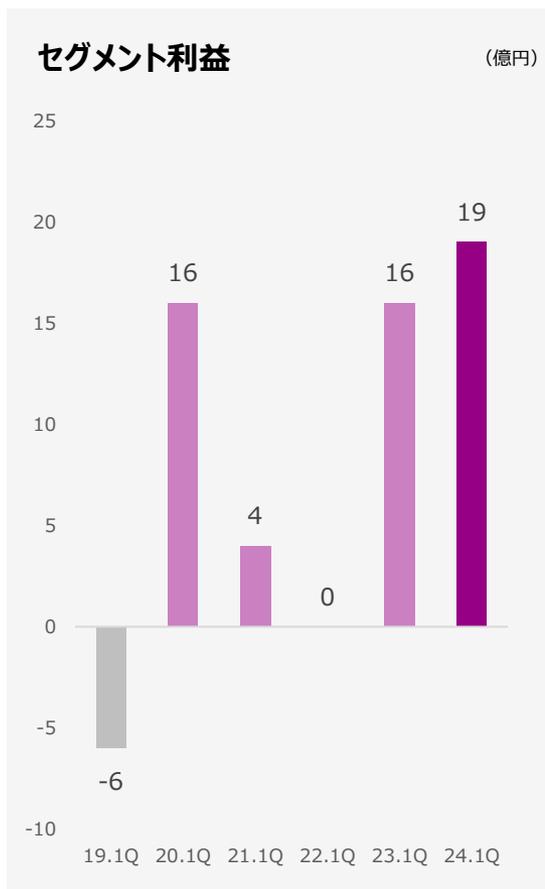
※2 デイリー11部門、デリカ2部門 ※3 最低賃金改定影響を含む ※4 デジタルサイネージで情報共有を行うツール

- MV東海、まいばすけっとが増益、連結子会社化したいなげやが利益貢献
- トップバリュ・地域PBの販売強化による売上・荒利率改善とDX推進による生産性向上でコストアップを補う



※1 2019、2020年度実績は会社のセグメント移動を調整 ※2 まいばす：まいばすけっと ※3 フジ、U.S.M.H、MV東海、ミニストップは連結業績。いなげや、ダイエー、まいばすけっとは単体業績
 ※4 いなげやは連結に伴う当四半期の取り込み分(2024年1月～3月)を表示 ※5 SM事業主要13社

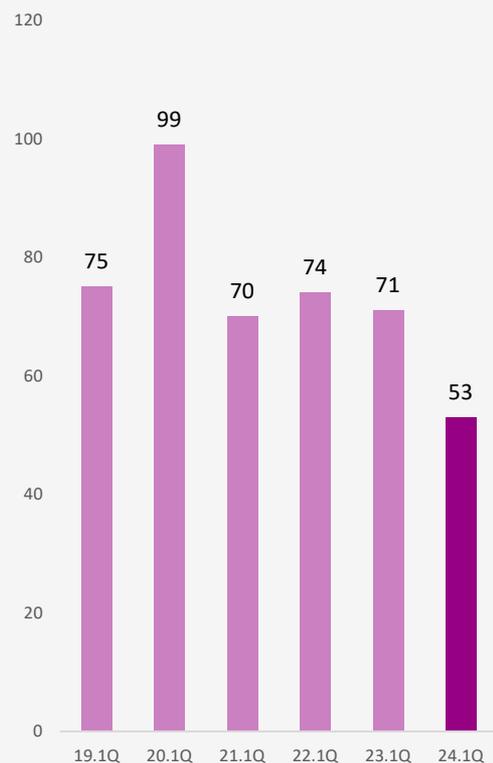
- 専用PBとローコストオペレーションを確立したDSフォーマットの構築で増収・増益
- 新生イオンビッグのPMIは順調に進行、2025年以降に二桁の出店を目指し体制強化



- PBや調剤併設店、インバウンド対応等の拡大により増収
- 新ポイントサービスを導入、たばこ取り扱い中止は1,000店舗に
- ツルハ、ウエルシア、イオンは、ドラッグストア連合の「目指す姿」を共有し、統合に向けた協議が進展

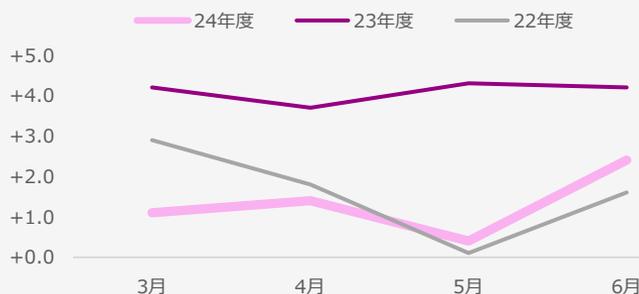
セグメント利益

(億円)



ウエルシアHD 既存店前年増減率推移・1Q全規模品目別前期比

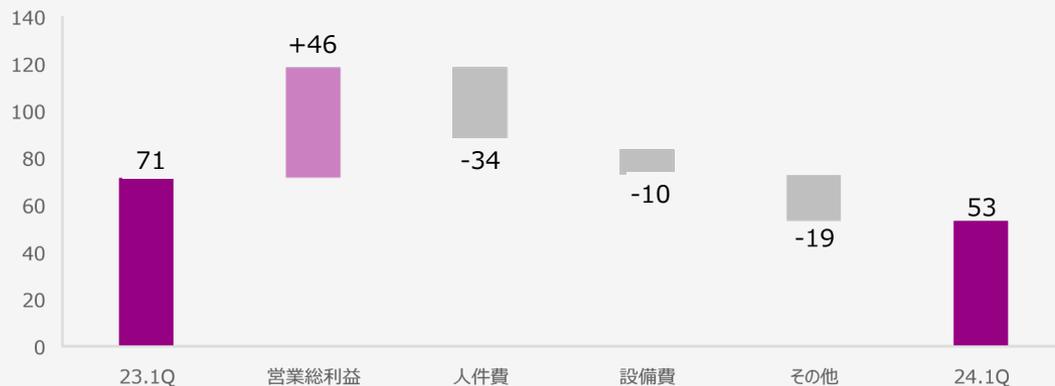
(%)



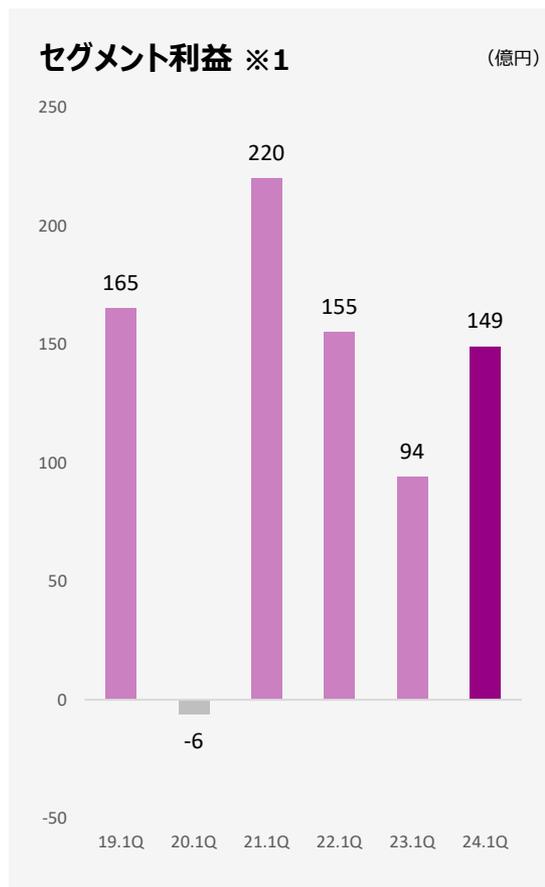
品目	前期比
医薬品	97.6
化粧品	103.0
家庭用雑貨	103.4
食品	104.1
その他	92.6
物販計	101.1
調剤	106.8
小計	102.2

営業利益増減要因

(億円)



- 国内:カード収益の増加と金融収益の計上で増収、貸倒関連費用が増加も販促費コントロールで増益
- 海外:回復速度にはエリア別に濃淡があるものの、マレー圏が復調し海外営業利益をけん引



イオンフィナンシャルサービス エリア別業績 ※3 (億円)

	国内	前期比		メコン圏	前期比		マレー圏	前期比	
		1Q	%		1Q	%		1Q	%
営業利益	63	753%	19	91%	25	96%	42	128%	
貸倒関連費用	60	117%	23	196%	88	104%	59	113%	

各種取扱高、営業債権残高状況 ※4 (億円)

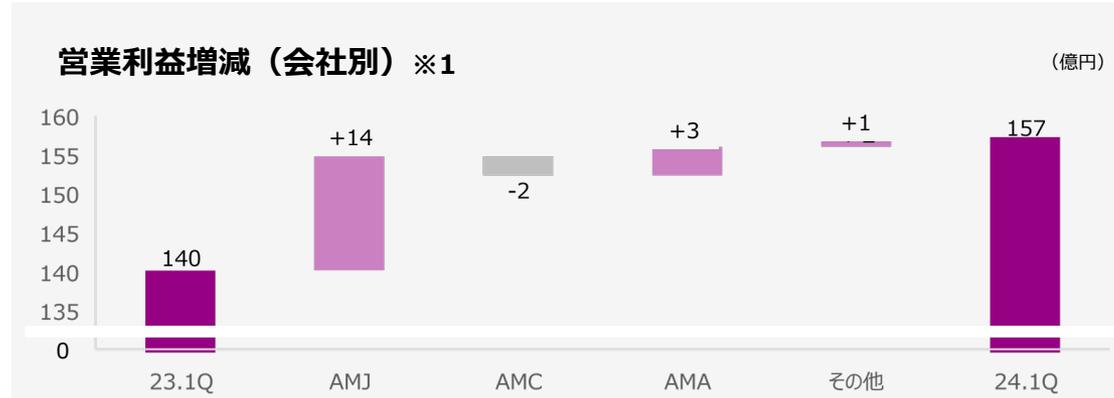
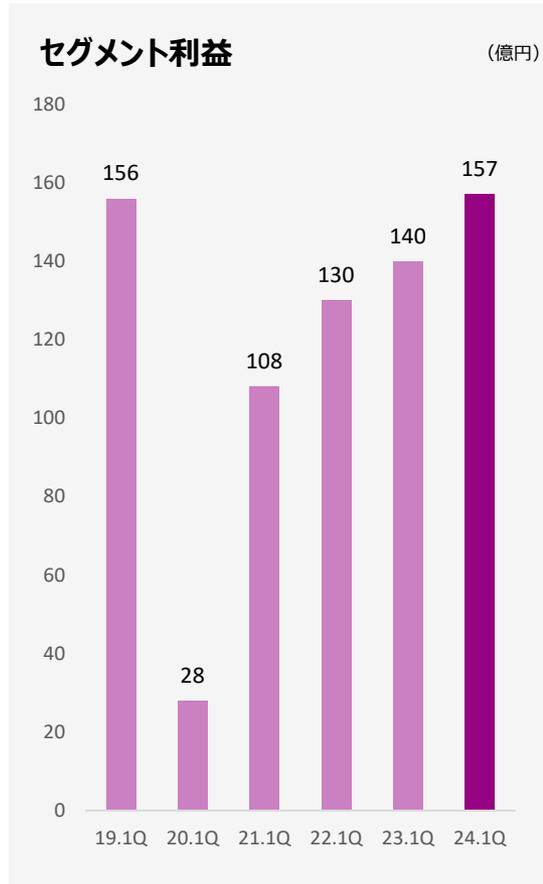
		取扱高	前期比	営業債権残高	期首差
		1Q	%	1Q	
国内	ショッピング	18,498	105%	13,841	+800
	キャッシング	1,027	102%	4,271	+148
海外	ショッピング	1,260	127%	1,546	+34
	キャッシング	464	132%	1,476	+30

※1 過年度実績はセグメント移動会社を調整

※2 AFS: イオンフィナンシャルサービス、AFS中華圏: 中国、香港、AFSメコン圏: ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、AFSマレー圏: マレーシア、インドネシア、フィリピン、インド

※3 AFS国内の営業利益増減や前期比は、前年度実績を遡及修正した後の数値から算出 ※4営業債権残高は、債権流動化前

- ・ イオンモールは、営業収益・営業利益ともに過去最高を達成
- ・ 国内：活性化やインバウンド対応で専門店売上伸長、市場価格連動へ切り替え等で電気代も削減し増益
- ・ 海外：専門店売上伸長のベトナムと空床削減のインドネシアが増益し、海外営業利益は過去最高を達成



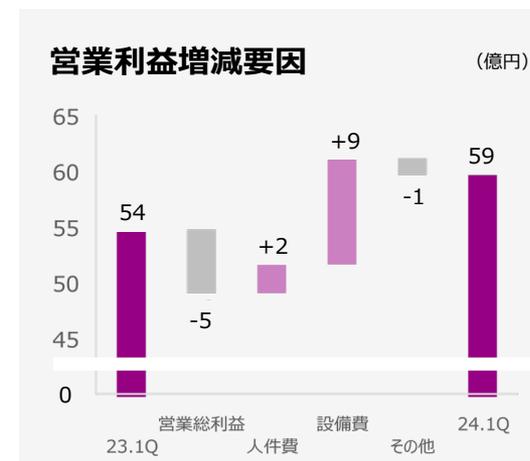
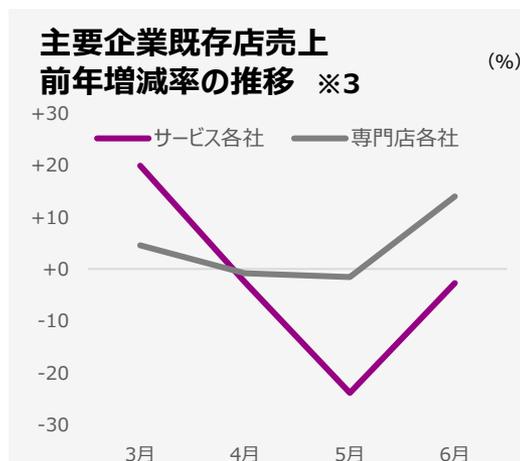
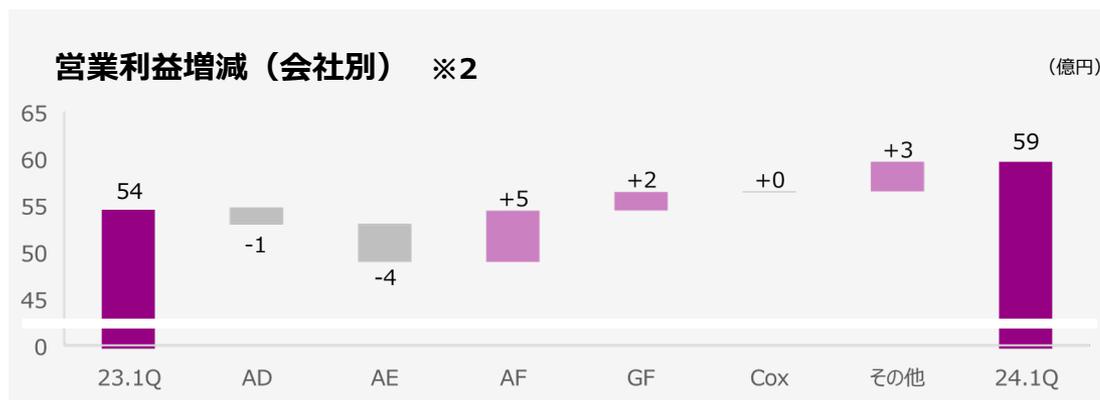
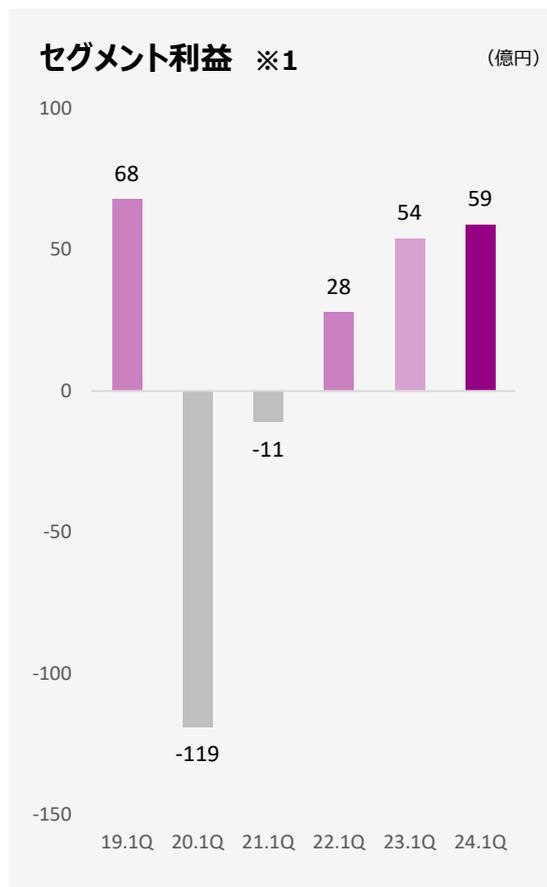
モール専門店売上

既存モール・エリア別 (%)	前期比	日本国内既存モール・業種別 (%)	前期比
日本	103.1	大型専門店	106.0
中国	106.7	衣料品	99.7
ベトナム	108.8	服飾品	103.7
カンボジア	100.6	雑貨	104.2
インドネシア ※2	114.9	飲食	105.0
		アミューズメント・シネマ	94.9
		サービス	107.2
		専門店小計	102.6

※1 AMJ:イオンモール国内セグメント, AMC:イオンモール中国セグメント, AMA:イオンモールアセアンセグメント

※2 インドネシアは既存モール来店客数

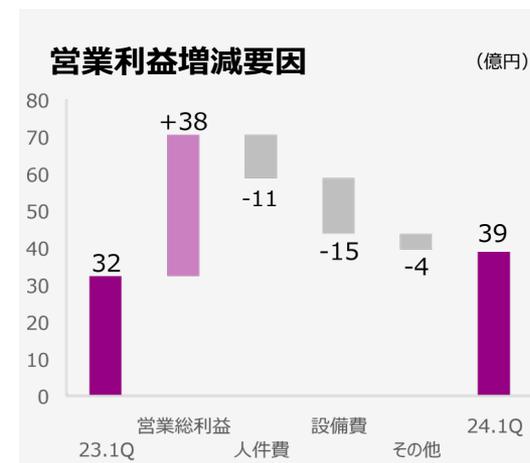
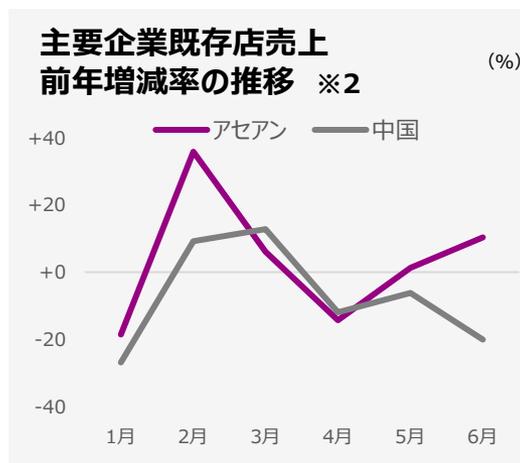
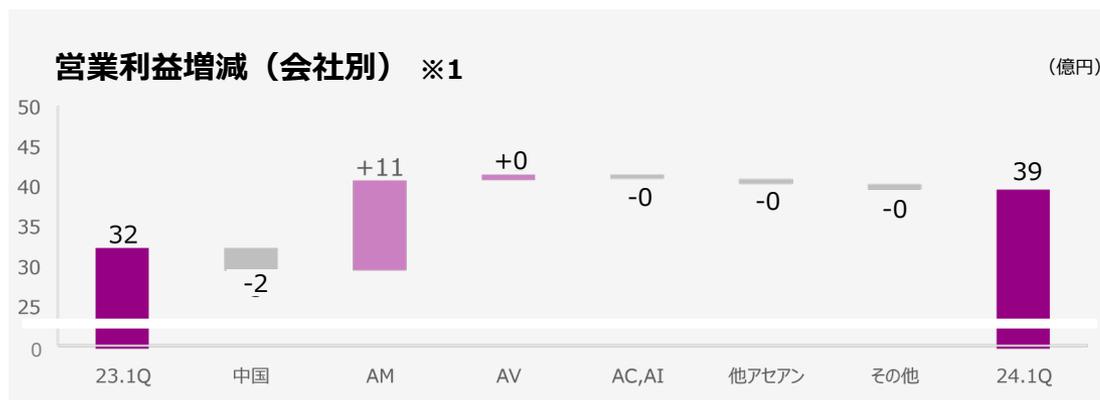
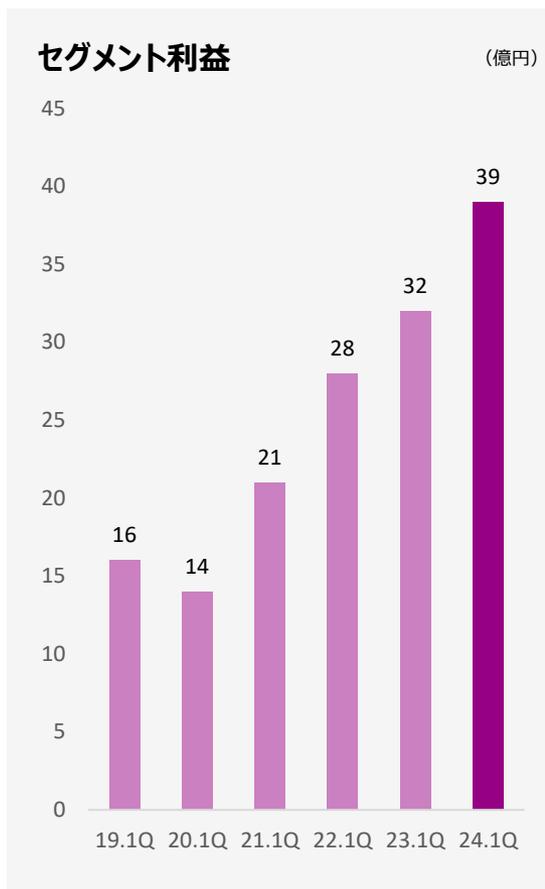
- ・ イオンファンタジー：国内の新業態や戦略的小型店の新店効果等で増収増益
- ・ コックス：仕入原価の低減を図り、売上総利益率の改善で販売管理費の伸びを吸収し増益
- ・ イオンエンターテイメント：前期が大ヒット作品公開で記録的な売上となった反動影響あり減益



※1 19年度実績はカジタク社影響除く ※2 AD:イオンデライト連結、AE:イオンエンターテイメント単体、AF:イオンファンタジー連結、GF:ジーフット連結、Cox:コックス連結

※3 サービス各社 主要4社、専門店各社 主要7社

- アセアン：イオンマレーシアは収益改善と厳格なコスト管理で増収増益
- 中国：香港が不調も、広東、華南、青島、北京、湖北は増益・損益改善。湖北では武漢江夏店が好調



※1 中国:中国事業、AM:イオンマレーシア、AV:イオンベトナム、AC:イオンカンボジア、AI:イオンインドネシア、他アセアン:他のアセアン4社

※2 アセアン:イオンマレーシア、イオンビッグマレーシア、イオンタイランド、イオンベトナム、中国:イオン香港、イオン華東、青島イオン、広東イオン、北京イオン、イオン華南、イオン湖北

2024年度の見通し

6月度の既存店売上は大幅伸長。トップラインを回復させるグループ横断的な施策を強化

6月度 既存店売上前期比

事業※	既存店 売上前期比
GMS	+6.2
SM	+2.5
DS	+6.1
ヘルス&ウェルネス事業	+3.1
デベロッパー	+12.5
サービス	-2.8
専門店	+13.9
中国	-15.0
アセアン	+6.1

2Q以降のグループ施策

6月からいよいよ「定額減税」がスタート
緊急企画「イオン 超!おトクな4weeks」開催
「イオン」「イオンスタイル」など全国約500店舗

イオンは6月の1か月間、「イオン」「イオンスタイル」等 全国約500店舗にて、「定額減税」の開始を機にお客さまの「欲しい」を後押しする生活応援企画「イオン 超!おトクな4weeks」を順次開催します。

定額減税スタート!
イオンの6月は**4超!オトクな4weeks**

イオンカード分割払い
手数料をイオンが
100%負担します!

3回・6回・10回・15回・20回払い
手数料 **ゼロ**

イオンゴールドカード
会員さま限定
イオンモール専門店限定
感謝デー
ご請求時に **5% OFF**
毎月20日・30日

6/28(金) イオン・イオンスタイル
連携実施
イオンマークのついた
カードのクレジット払い・
AEON Payのスマホ決済で
ポイント10倍
基本の10倍

お買物をぐっすり楽しんでもらいたくために
29・30 2日間開催!!
お客様感謝デー
5% OFF
AEON Pay決済
ル・レントにチャレンジ!

盛り上がる夏。
イオンモール
SUMMER SALE
6/21Fri START!

次世代型総菜プロセスセンター「クラフトデリカ船橋」



Craft Delica
まいにち、シェフクオリティ

※ 各事業の値は、主要企業の実績に基づきます。

GMS：14社、SM：13社、DS：3社、ヘルス&ウェルネス：3社、サービス：4社、専門店：7社、デベロッパー：イオンモール、イオンリテール・イオン東北DV、中国：7社、アセアン：4社

	連結業績への影響※	第1四半期 実績
電気代 上昇	水光熱費への影響 前期差 +100 億円	水光熱費への影響 前年同期差 ▲71 億円
物流 24年問題	グループ物流費への影響 前期差 +40 億円	グループ物流費の影響 前年同期差 +9 億円
賃金上昇	人件費への影響 前期差 +650 億円 ・通常の増加分 +150億円 ・戦略的な積み増し分 +500億円	人件費への影響 前年同期差 +125 億円

※業績予想では、影響額と対策による効果額を見込んでいます

- 期初予想に変更なし。第1四半期は概ね想定線での進捗

(億円)

	2024年度			2023年度	
	予想	前期比	前期差	1Q実績	実績
営業収益	100,000	+4.7%	+4,464	24,492	95,535
営業利益	2,700	+7.6%	+191	477	2,508
経常利益	2,600	+9.5%	+225	453	2,374
親会社株主に帰属する 当期純利益	460	+2.9%	+13	51	446

The AEON logo is centered on a white background. It features the word "AEON" in a bold, purple, sans-serif font. A purple, three-dimensional ring with a gradient effect is positioned horizontally, passing through the middle of the letters "E" and "O".

AEON

2024年5月末 連結貸借対照表



資産の部（主要項目のみ）				資産の部（主要項目のみ）			
(億円)				(億円)			
	2024/2	2024/5	前期末差		2024/2	2024/5	前期末差
現預金	11,655	8,667	△ 2,987	支払手形・買掛金	10,731	11,239	+507
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	19,574	18,381	△ 1,193	有利子負債 (金融子会社除く)	24,027	24,667	+640
たな卸資産	6,252	6,517	+264	有利子負債 (金融子会社)	13,129	13,084	△ 44
営業貸付金・ 銀行業における貸出金	32,228	35,666	+3,437	銀行業における預金	45,332	45,635	+302
有形固定資産	34,149	34,755	+605	負債合計 (金融子会社除く)	108,535 (47,790)	110,103 (49,318)	+1,566 (+1,528)
投資その他資産	11,057	11,734	+677	株主資本	9,133	9,047	△ 86
資産合計 (金融子会社除く)	129,408 (64,006)	130,874 (65,409)	+1,465 (+1,403)	純資産合計 (金融子会社除く)	20,872 (16,215)	20,771 (16,090)	△ 100 (△ 124)
				負債・純資産合計 (金融子会社除く)	129,408 (64,006)	130,874 (65,409)	1,465 (+1,403)

- 上場50周年記念配当実施
- 年間配当は、一株当たり40円。普通配当36円、記念配当4円

	2023年度	2024年度 (予想)
第2四半期	普通配当 18円	普通配当 18円 記念配当 2円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円 記念配当 2円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円 記念配当 4円

ダイエー再編関連企業の2024年度第1四半期実績



(億円, %)

事業	社名	営業収益		営業利益	
		実績	前年同四半期 増減率	実績	前年同四半期 増減
GMS	イオンリテールストア ※関東、近畿、名古屋の 旧ダイエー-GMS	233	-6.0%	-6	+2
SM	ダイエー	757	+3.1%	-4	-0

予測に関する注意事項

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。